



令和6年度 高雄日本人学校

愛河

校訓 「高雄の子ども」 たくましい子 考える子 思いやりのある子



学校だより10月号

令和6年9月30日

文責 校長 堀山 知基

1学期ラストスパートです！

明日から10月です。日本では朝晩に涼しさを感じてくる頃ですが、高雄ではまだまだ暑い日が続きます。強い日差しの中、10月26日（土）の運動会に向けた練習が早速始まりました。先週は全校児童生徒が集まり、リレー練習も行いました。今年はどうなるか、今からとても楽しみです。

そして、1学期終業式までの登校日数は7日です。子供たちが1学期の学習・生活のまとめと振り返りにしっかりと取り組み、達成感をもって1学期の終業式を迎えられるよう指導を継続してまいります。ご家庭での励ましの声掛けをよろしくお願いいたします。



児童生徒会選挙が行われました

9月13日（金）、本校多目的室にて児童生徒会選挙が行われました。投票に先立って、各立候補者が児童生徒会役員として果たしていきたい公約を述べました。「朝の挨拶運動を全学年に広げ、元気な挨拶ができる学校にしたい。」「昼休みのふれ合いレクの機会を増やし、全校児童生徒がより仲良く過ごせるようにする。」等、高雄日本人学校をより良くしていくための方策を堂々と述べる姿には頼もしさを感じました。また、有権者である小学部5年生以上の児童生徒は、一人一人の立候補者の話にしっかりと耳を傾けた後、大切な一票を投じていました。今回の児童生徒会選挙は、本物の国政選挙さながらに票に記入するブースや投票箱を準備したこともあり、会場そのものに緊張感があり、子供たちは投票の実際を学ぶよい機会ともなりました。今回選出された本部役員の生徒、並びに、専門委員会の委員長が中心となり、児童生徒が自らの手で自治的に児童生徒会を運営し、良い学校づくりに向けて今後の取組を継続してほしいと願っています。



地震想定避難訓練を実施しました

9月20日（金）、地震の発生を想定した避難訓練を実施しました。地震が発生したことを知らせるアラームと放送が流れると、まず子供たちは机の下で身を守り、その後ヘルメットを着用して、素早く避難することができました。以下、校長の話を紹介いたします。

台湾では1999年（平成11年）9月21日に台湾中部地方で大きな地震が発生し、多くの方が犠牲となっています。この地震を忘れず、日頃から自然災害に備えるために、毎年9月21日に避難訓練を行っています。

故事成語に「備えあれば憂いなし」という言葉がありますが、この言葉には前段があります。「安きに居りて危うきを思う 思えば則ち備えあり 備えあれば恵い無し」です。これは、「何も起こらないから安心するのではなく、いざというときに備えてあらかじめ準備をしておけば、事が起こっても心配することはない。」ということを説いています。まさに、今後起こり得る自然災害の被害に備えての心構えと言えます。特に、中学生の皆さんは、大規模な災害が起こったときに、中学生自らが救援活動の手伝いをしたり、自分たちで自ら動いたりする場面があるかもしれません。これから先、大きな災害が起こったときにどのように行動するか、どのように自分の命を守っていくか、日頃から考えていくようにしましょう。

台湾も日本も地震が大変多い地域です。今年の4月には花蓮地方で、大規模な地震により大きな被害が発生したことは記憶に新しいところです。各ご家庭においても、万が一大きな自然災害が発生したときに、「どのように避難するか」「家族とどう連絡を取るか」など確かめておくといいですね。「備えあれば憂いなし」です。

